

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0873200406		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	医療法人社団 正信会 グループホームあさがお		
所在地	笠間市旭町417-8 (電話) 0296-70-5005		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年8月9日	評価確定日	平成20年2月6日

【情報提供票より】(平成19年7月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月14日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	16 人	常勤 10人, 非常勤 6人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨木造モルタル 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,500 円	その他の経費(月額)	5,000+実費 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(7月15日現在)

利用者人数	23 名	男性 7 名	女性 16 名
要介護1	8 名	要介護2	9 名
要介護3	6 名	要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢 平均	82.9 歳	最低 68 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 正信会 美野里病院、原田歯科クリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員は管理者の考えをよく理解し、利用者が居心地よく安心して過ごせるよう「やさしく、親切、丁寧な」ケアを提供している。
また、設置法人が多くのグループホームや他の福祉施設を運営している利点を活かし、医療機関、介護保険施設等との連携を図り、利用者の状況に応じた柔軟な対応をしている。
設置法人では、職員のストレス等を解消するため、スーパーバイザーの職員が定期的に巡回し、相談にのっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果を基に、ケアの振り返りや見直しを行い、改善課題の15項目を全て改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者、職員は、評価の意義やねらいをよく理解しており、評価にあたっては全員で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の開催に向けて準備しているが、実施するまでには至っていない。 委員の選考や日程調整を速やかに行い、運営推進会議を開催することが望まれる。 また、運営推進会議は、事業所の取り組み内容や外部評価の結果を話し合うなど、地域の方々に理解と支援を得るための場となることを期待する。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 契約時に家族の意見や要望を伝えることができる体制について、説明している。 また、意見箱を設置するなど、要望等を積極的に聞く場面作りをしている。 定期的に「あさがお元気通信」を発行し、利用者一人ひとりの日々の暮らしぶりを報告するとともに、健康状態、金銭管理などを報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 笠間市福祉施設協働事業連絡協議会や商工観光課の事業に参加している。 また、地域の敬老会や食事会などに招待されたり、買い物や散歩などを通して地域の人々と交流している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の「富める人、貧しい人の区別なく全ての人々に心のこもった医療福祉を」という社訓を大事にしながら「やさしく、親切、丁寧に」をモットーとして地域に根ざした支援が行えるよう努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送りや週1回のユニットごとのミーティング時に具体的な事柄を通して話し合い、理念の共有化を図るとともに、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	笠間市福祉施設協働事業連絡協議会や商工観光課の事業に参加している。 また、地域の敬老会や食事会などに招待されたり、買い物や散歩などを通して地域の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、評価の意義やねらいをよく理解しており、評価にあたっては全員で取り組んでいる。 外部評価の結果を基に、ケアの振り返りや見直しを行い、改善課題の15項目を全て改善している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催に向けて準備しているが、実施するまでには至っていない。	○	委員の選考や日程調整を速やかに行い、運営推進会議を開催することが望まれる。 また、運営推進会議は、事業所の取り組み内容や外部評価の結果を話し合うなど、地域の方々に理解と支援を得るための場となることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課に折に触れて出かけ、事業所の実情やケアサービスの取り組みなどを伝えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に「あさがお元気通信」を発行し、利用者一人ひとりの日々の暮らしぶりを報告するとともに、健康状態、金銭管理などを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に家族の意見や要望を伝えることができる体制を説明している。 また、意見箱を設置するなど、要望等を積極的に聞く場面作りをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員が馴染みの関係を保つことを大切に考え、職員の異動や離職を最小限に抑える努力をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修等を受講できるよう機会を設けている。 また、研修の内容について、報告書を作成するとともに、内部研修を実施し、情報を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茨城県認知症高齢者グループホーム協議会に加入するとともに、協議会主催の研修会等に積極的に参加している。 また、他施設の取り組みを学ぶとともに、情報の交換を行うなど、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望により、事前のホーム見学や短期間の体験入所を受け入れしている。 職員は利用者がホームに馴染むまで、見守りや声かけを行うなど、利用者の視点に立ったかかわりを持っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と生活する中で、介護するばかりでなく、野菜の作り方や食べ方を教わるなど、利用者から学ぶことも多く、支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独自のアセスメント書式を作成し、情報を収集するとともに、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向等を把握している。また、その人らしく暮らし続けられるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントで把握した思いや暮らし方の希望を踏まえ、生活上の課題や希望を叶えられるよう介護計画を作成している。また、週に一度ケアカンファレンスを行い、問題点や改善すべきことを話し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、利用者一人ひとりの実状に即した介護が実践できるよう、毎週職員間でミーティングを行い、必要に応じた見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が安心してホームで暮らし続けられるよう、また、利用者や家族の要望に応じたサービスを提供できるよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のほか、かかりつけ医に受診できる体制となっており、かかりつけ医と綿密に連携を取っている。 利用者の受診の際に職員が同行し、状態や症状を詳細に報告するなど、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について、利用契約時に家族に説明している。 ホームでは、対応できる最大の支援ができるよう考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないように、言葉かけや対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮するとともに、本人の気持ちやペースに配慮した、柔軟な支援を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が楽しそうに会話をしながら、それぞれのペースで食事をしている。利用者一人ひとりの力量に応じて、準備や後片付けを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者から意見を聞き、利用者の好みに応じた入浴時間や温度設定で入浴できるよう、支援している。都合で入浴できないときは、他のユニットで入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりに合った役割や楽しみを見つけ、場面づくりの支援をしている。また、季節ごとの食事や行事、レクリエーションを企画し、楽しみごとや気晴らしができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暖かく天気の良い日に、散歩や買い物を楽しんでいる。散歩を兼ねて、嗜好品などの買い物もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関が死角になっているため、利用者・家族に事情を説明するとともに、同意を得て内鍵をかけている。ホームで内庭を作り、利用者が野菜作りや花を育てている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回定期的に訓練を行っている。 また、万一の時に地域の方々に協力を得られるよう働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	設置法人の栄養士が献立を作り、調理を行っている。 また、利用者の食事や水分の摂取量を把握するため、記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは採光できるよう設計しており、屋内はとても明るい。 ユニットに畳の部屋を設け、利用者が寛げるよう配慮している。 また、廊下の所々に長椅子を置き、居心地良く過ごせるよう工夫するとともに、玄関に折々の花を飾り、季節が感じられるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が居心地よく安心して過ごせるよう、使い慣れた家具や好みの絵、仏壇などを持ち込みしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。